

2011年第2四半期の純利益は18億ドルと公表 税引き後営業利益は13億ドル

2011年8月4日（ニューヨーク発）：AIGは、2011年第2四半期のAIGに帰属する純利益が18億ドル、税引き後営業利益が13億ドルになったと公表しました。これに対して、2010年第2四半期は純損失が27億ドル、税引き後営業利益は7.93億ドルでした。2010年第2四半期の損失は、主に非継続事業に含まれる33億ドルの非現金のれん代減損費用によるものでした。1株当たり希薄化後損益は、2011年第2四半期は1.00ドルの利益となり、株主資本利益率は8.3%となりました。これに対して2010年第2四半期は19.57ドルの損失でした。2011年第2四半期の1株当たり税引き後営業利益は0.69ドルとなり、この株主資本利益率は6.3%となりました。これに対して、前年第2四半期の1株当たり税引き後営業利益は1.18ドルでした。今期の1株当たり利益には、2011年1月14日に米国財務省に対して発行された16.55億株が反映されています。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは以下のように述べました。「第2四半期の業績には、すべての事業部門の従業員の懸命な働きと、徹底して業績向上を迫った成果が表れています。第2四半期には、87億ドルの普通株式を募集し、資本再編における重要な節目を達成しました。AIGにより1億株が新規発行および売却され、米国財務省により2億株が利益を上乗せする形で売却されました。当社の業績が引き続き向上することは、米国財務省が納税者のために保有株式に利益を上乗せし売却する上で、重要な要素となります。ニューヨーク連邦準備銀行（NY連銀）のクレジット融資枠は全額返済し、政府の管理下から独立した投資適格な企業としてAIGの長期的な価値を示すための道筋をしっかりと進んでいます。」

ハイライト

- チャーティスの2011年第2四半期の営業利益は、前年同期が9.55億ドルであったのに対して、7.89億ドルとなりました。これには、5.39億ドルの異常災害損失が含まれていますが、前年の支払準備金の大幅な変動がなかったことも反映されています。正味収入保険料は17.6%増加しました。
- サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの2011年第2四半期の営業利益は、前年同期が8.58億ドルであったのに対して、7.43億ドルとなりました。金融受け皿会社（Maiden Lane II）の時価評価を変更したため、正味投資利益は減少しましたが、現金をその他の投資に配分し直し、2011年第2四半期の利回りは前期の5.00%から5.36%に上昇しました。
- 金融サービス事業部門の2011年第2四半期の営業損益は、前年同期の2,500万ドルの利益に対して、1.46億ドルの損失となりました。これには、キャピタル・マーケットの第2四半期の営業損失が、主にスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連する未実現時価評価損を主因として、前年同期の1.45億ドルに対して1.60億ドルとなったことが含まれています。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）の営業利益は、前年同期の1.82億ドルに対して、8,600万ドルとなりました。
- AIGの親会社およびその他の事業の2011年第2四半期の営業損益は、前年同期が1.31億ドルの損失であったのに対して、3.44億ドルの利益を計上しました。この業績には、モーゲージ・ギャランティの2011年第2四半期の営業利益が、前年同期の2.26億ドルに対して1,300万ドルになったことが含まれています。さらに第2四半期に、AIGが保有するAIA普通株式による時価評価益は15億ドルとなりましたが、金融受け皿会社（Maiden Lane III）の持分の公正価値は、マルチセクターCDOポートフォリオのスプレッド拡大によって、6.67億ドル減少しました。
- 2011年第2四半期にAIGは、投資ポートフォリオ戦略の一環として、非課税地方債ポートフォリオを約50億ドル減らしました。米国地方債ポートフォリオは、主に収益事業債、高格付けの税収入財源債で構成されており、ポートフォリオの97%が「A格」以上で、投資ポートフォリオの9.47%を占めています。
- 2011年5月27日、AIGおよび米国財務省はAIG普通株式につき、証券登録された募集を完了しました。

AIG は普通株式 1 億株を新規発行および売却し、正味受取収入合計はおよそ 29 億ドルとなりました。米国財務省は AIG 普通株式 2 億株を売却しました。この結果、シリーズ G 資金引き出し権は行使されずに消滅し、シリーズ G 優先株式の発行はキャンセルとなりました。米国財務省の保有比率は約 92% から、募集完了後発行済み AIG 普通株式の約 77% に低下しました。

- AIGFP のデリバティブ・ポートフォリオの能動的な清算については、2011 年第 2 四半期末までに完了させました。残りの AIGFP デリバティブ・ポートフォリオの大半は、複雑性が低く、またリスクも低く、AIG のリスク・マネジメント方針に適合したものであると AIG は考えており、また費用・便益分析においても、経済的に清算は不適切だと考える取引で構成されています。ただし、ポートフォリオは定期的な時価評価による変動を受ける可能性があります。
- 2011 年 7 月 27 日、AIG は、南山人壽保險（ナンシャン）の 97.57% の株式を、台湾を拠点とするコンソーシアムに現金 21.6 億ドルで売却するとの合意に対して、台湾規制当局より最終承認を受けました。この売却は第 3 四半期に完了する見通しです。
- 2011 年 6 月 30 日現在のトータル・エクイティは 936 億ドル、1 株当たり純資産は 49.18 ドルとなりました。これには、2011 年 8 月 1 日にエクイティ・ユニットとして発行された株式による影響が含まれています。

税引き後営業利益（損失）への調整 第 2 四半期業績

（単位：百万米ドル、ただし 1 株当たりの情報を除く）

	2011 年	2010 年	希薄化後 1 株当たり ⁽¹⁾	
			2011 年	2010 年
AIG に帰属する純利益（損失）	\$1,840	\$(2,656)	\$1.00	\$(19.57)
税引き後営業利益（損失）算出のために、損失を加えて利益を控除（税引き後）：				
実現キャピタル・ゲイン（ロス）、サンアメリカの DAC による相殺および税引き後	6	(360)		
事業売却の純利益（損失）	(1)	93		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益（損失）	28	(96)		
NY 連銀クレジット融資枠の償却費合計	-	(353)		
事業売却の純利益 ⁽²⁾	10	467		
繰延税金評価引当金の減算 ⁽³⁾	570	(576)		
非継続事業の純利益（損失）、税引き後 ⁽⁴⁾	(49)	(2,624)		
AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）	\$1,276	\$793	\$0.69	\$1.18

- (1) シリーズ C の優先株主への純利益（損失）帰属後の普通株主に帰属する純利益（損失）に基づき 2010 年の値を算出。資本再構成化の完了を受けて、2011 年の帰属分はなし。
- (2) 2010 年の値は主に AIA。
- (3) 継続事業に帰属する税金評価引当金。
- (4) 2011 年第 2 四半期の値にはナンシャンを含む。2010 年第 2 四半期の値には、AIG スター生命、AIG エジソン生命、ALICO、アメリカン・ジェネラル・ファイナンスおよびナンシャンを含む。

税引き後営業利益の要約
第2四半期業績
(単位：百万米ドル)

	2011年	2010年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益（損失）：		
チャーティス	\$ 789	\$ 955
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ	743	858
小計 - 継続事業に属する保険事業	1,532	1,813
ILFC（金融サービス事業に計上）	86	182
モーゲージ・ギャランティ（その他の事業に計上）	13	226
第三者に対する負債の利息	(420)	(484)
その他		
金融受け皿会社（Maiden Lane III）	(667)	358
消去または全社	(177)	(369)
資産運用事業	92	303
キャピタル・マーケット	(160)	(145)
金融サービス事業- その他	(72)	(12)
小計 - 継続事業	227	1,872
AIAの時価評価益	1,521	-
NY連銀および米国財務省への支払利息、優先持分からの利益	(141)	(720)
その他非支配的持分	(75)	(28)
法人税（経費）／ベネフィット	(256)	(331)
AIGに帰属する税引き後営業利益（損失）	\$ 1,276	\$ 793

税引き後営業利益の要約
2011年上半期業績
(単位：百万米ドル)

	2011年	2010年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益（損失）：		
チャーティス	\$ 326	\$ 1,834
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ	1,886	1,977
小計 - 継続事業に属する保険事業	2,212	3,811
ILFC（金融サービス事業に計上）	203	126
モーゲージ・ギャランティ（その他の事業に計上）	26	299
第三者に対する負債の利息	(847)	(959)
その他		
金融受け皿会社（Maiden Lane III）	77	1,109
消去または全社	(118)	(425)
資産運用事業	580	293
キャピタル・マーケット	117	(231)
金融サービス事業- その他	(147)	(41)
小計 - 継続事業	2,103	3,982
AIAならびにメットライフの時価評価益	2,426	-
NY連銀および米国財務省への支払利息、優先持分からの利益	(121)	(1,433)
その他非支配的持分	(19)	(160)
法人税（経費）／ベネフィット	(1,083)	(959)
AIGに帰属する税引き後営業利益（損失）	\$ 3,306	\$ 1,430

チャーティス

チャーティスの 2011 年第 2 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は、前年同期が 9.55 億ドルであったのに対して 7.89 億ドルとなりました。2011 年第 2 四半期業績には、異常災害損失が 5.39 億ドルとなったことが含まれています。この内訳は、米国中西部、南東部、北東部の竜巻に関連したものが 3.48 億ドル、米国の洪水や暴風雨に関するものが 8,400 万ドル、6 月のニュージーランドの地震に関するものが 5,400 万ドルです。これに対して前年同期の異常災害損失は 3 億ドルでした。チャーティスの 2011 年上半期の営業利益は、東北地方太平洋沖地震および津波での 13 億ドルを含め、異常災害損失が異例の高水準となったことでマイナスの影響を受けました。

2011 年第 2 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 102.0 であったのに対して、104.0 となりました。2011 年保険事故年度のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと、前年同期が 96.9 であったのに対して、97.7 となりました。2011 年第 2 四半期の業績においては、前年の支払準備金の大幅な変動や、3 月に日本で発生した地震に関連する見積損失額に変動はありませんでした。

2011 年第 2 四半期の正味収入保険料は前年同期比で 2.4%増加し、富士火災の連結子会社化と為替の影響を除くと、ほぼ横ばいでした。富士火災の連結子会社化と為替の影響を含めると、世界全体での正味収入保険料は前年同期比で 17.6%増加しました。第 2 四半期には、他のラインの料率はほぼ横ばいとなった一方で、主に法人向け財物保険ならびに労働者災害補償保険がけん引役となって、米国の料率は概ね改善しました。チャーティスの契約維持率は引き続き良好でした。

チャーティスは真にグローバルなコマーシャルラインとコンシューマーラインを確立するための事業再編を大きく前進させました。チャーティスは、組織およびオペレーティングの編成や、関連部門のレポートングの変更を 2011 年第 3 四半期に完了させる予定です。

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカの 2011 年第 2 四半期の営業利益は、前年同期が 8.58 億ドルであったのに対して、7.43 億ドルとなりました。2011 年第 2 四半期業績は、サンアメリカが保有する ML II の時価評価が 1.76 億ドル低下し、正味投資利益が前年同期の 1.2 億ドルから減少したことによる影響を受けました。ML II を除くと、パートナーシップ利益の増加、また 84 億ドルの現金および短期投資を、特定の ML II 関連の有価証券など利回りが高い債券に配分し直したことから、正味投資利益は増加しました。

2011 年 6 月 30 日現在の運用資産は、前年同期の 2,338 億ドルから 9%増加して、2,549 億ドルとなりました。未実現評価益は、2011 年 3 月 31 日現在 41 億ドルであったのに対して、合計 46 億ドルでした。

収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の 50 億ドルから 23.7%増の計 61 億ドルとなりました。これは、定額年金、変額年金いずれの預かり資産も、前年から大幅に増加したことによるものです。定額年金預かり資産は、前年同期比 58%増加しました。一部の銀行と、手数料引き下げと引き換えに、貸出金利を引き上げること交渉したことによって、保険契約者にとってサンアメリカの商品の魅力が高まりました。変額年金預かり資産は、前年同期比で 68%増加して、8.32 億ドルとなりました。これは競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー／ディーラー事業体による昨年の販売回復、およびホールセール事業体の生産性向上、株式市場の回復によるものです。グループ・リタイアメント商品およびリテール向けミューチュアルファンドの預かり資産も、それぞれ 6%、29%増加しました。個人向け生命保険販売は、前年同期比 16%増加しました。これは、商品の拡充とともに、独立代理店との関係を修復し、キャリア・エージェントの生産性を向上させるための努力が結果をもたらしているためです。

金融サービス事業

2011 年第 2 四半期、金融サービス事業部門は、前年同期の 2,500 万ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益に対して、1.46 億ドルの損失を計上しました。

ILFC は、前年同期が 1.82 億ドルの営業利益を計上したのに対して、2011 年第 2 四半期は 8,600 万ドルの営業利益を計上しました。2011 年第 2 四半期に、ILFC はリース料収入 11 億ドル、減価償却費 4.59 億ドルを計上しましたが、これに対して 2010 年第 2 四半期のリース料収入は 12 億ドル、減価償却費は 4.80 億ドルでした。これは、2010 年、2011 年に機体を売却した結果、オペレーティング・リース中の機体数が減少したこと、また中古機のリース料低下の影響によるものです。ILFC は今期、負債償還による費用 6,100 万ドル、さらに資

産減損損失、公正価値調整、リース関連費用で4,200万ドルを計上しました。2011年6月30日現在、ILFCの保有機体数は、前年同期が946機であったのに対して、933機となりました。

キャピタル・マーケットは、2011年6月30日現在、残りのAIGFPデリバティブ・ポートフォリオの能動的な清算を完了しており、第2四半期の営業損益は、前年同期の1.45億ドルの損失に対して、1.60億ドルの損失となりました。このような業績の要因となったのは、主にスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連する未実現時価評価損で、キャピタル・マーケットのデリバティブ資産および負債の評価に対するクレジットスプレッドの変動による正味効果に関連した改善、また営業費用の減少によって、一部相殺されました。

AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの清算状況:

- AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2010年12月31日時点の599億ドルのスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップを含む3,413億ドルから42%減少し、2011年6月30日時点では1,984億ドルとなりました。これにはスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ291億ドルが含まれています。2011年6月30日および2010年12月31日時点の想定元本には、それぞれ約80億ドル、約115億ドルの関係会社間デリバティブは含まれていません。
- トレードポジションは2010年12月31日時点の約3,900から、約1,700(44%)減少し、2011年6月30日時点では約2,200となりました。2011年6月30日の値には、2010年にAIGのダイレクト・インベストメント事業に管理が移管された非デリバティブ資産・負債のトレードポジション約4,800は含まれていません。

親会社およびその他の事業

親会社およびその他の事業の営業損益は、前年同期が1.31億ドルの損失であったのに対して、2011年第2四半期には3.44億ドルの利益を計上しました。保有するAIA普通株式により15億ドルの利益を計上しました。このポジションは、2011年6月30日の香港証券取引所終値に基づく公正価値で評価されているためです。未配分の本部経費は、前年同期が7.61億ドルであったのに対して、合計2.61億ドルとなりました。これには多額の訴訟準備金が含まれます。AIAの業績は、2010年第2四半期にAIGの連結対象となりました。

モーゲージ・ギャランティは、前年同期の2.26億ドルに対して、2011年第2四半期には1,300万ドルの営業利益を計上しました。前年の結果は、支払準備金の変動に関する2.32億ドルの有利な動きを反映しています。2011年第2四半期には、新たに計上する不良債権は減少を続けたものの、取り消しの撤回が増加しました。

AIGのダイレクト・インベストメント事業の第2四半期の正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前の営業利益は、前年同期の3.07億ドルに対して、9,300万ドルとなりました。主に第2四半期にクレジットスプレッドが大きく拡大したことで、利益は減少しました。

金融受け皿会社(Maiden Lane III)におけるAIGの持分の公正価値は、前年同期に3.58億ドル増加したのに対して、2011年第2四半期には6.67億ドル減少しました。これは、第2四半期に米国の住宅関連資産のクレジットスプレッドが拡大したためです。AIGの投資の回復を支えている将来の見積キャッシュフローと残りの持分の比率は、引き続き堅調でした。

カンファレンス・コール

AIGは、明日2011年8月5日午前8時(米東部時間)より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト(<http://www.aig.com>)でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール (カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます)、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測および見解は、米国財務省 (「財務省」) が保有する AIG 株式の売却時期、財務省が保有する AIA オーロラの優先持分の返済の時期および方法、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンパインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常損害の発生、重要な法的手続き、地方債ポートフォリオなど AIG の投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、ILFC の機体の復元可能性に関する判断、および 2011 年 6 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書の、パート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」)、2011 年 3 月 31 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書のパート II 項目 1A (「リスク要因」)、2010 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による年次報告書の、パート II 項目 7 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」) およびパート I 項目 1A などで取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIG について

AIG グループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130 以上の国・地域でサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社 AIG, Inc. の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2011 年第 2 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、収入、純利益、営業利益および関連する業績指標は、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、事業売却の結果、非継続事業、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、シリーズ C、E、F 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン (ロス) からサンアメリカの DAC による相殺を除いたもの、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の影響、のれん代減損の影響、信用評価の調整、未実現評価益 (評価損)、異常災害関連損失および前年の損害動向の影響、アスベスト関連の損失、外国為替レート、繰延税金評価引当金または信用、富士火災のバーゲン・パーチェス・ゲインを除外して示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益 (または損失) および実現キャピタル・ゲイン (ロス) を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン (ロス) の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン (ロス) は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、これによって、財務諸表を利用される投資家の方々にとって最も意味がある方法で、財務情報を表示、検討できるものと考えています。事業利益 (損失) は、チャータースの業績を報告するために用いています。営業利益 (損失) は、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)、関連 DAC および販売促進資産 (SIA) の償却、のれん代減損費用の調整前のもので、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ (サンアメリカ) の業績を報告するために用いています。非継続事業の業績および、子会社売却の純利益 (損失) は、これらの数値に含まれていません。AIG は、これらの数値によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。これらの数値を開示する場合、GAAP 型税引き前利益の調整を示します。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高 (収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険 CPPE 売上高) には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

AIG は、重要な子会社売却や事業再編に関連する活動を踏まえて、2010 年第 4 四半期に税引き後営業利益 (損失) の定義を見直しました (以前の修正純利益)。財務諸表を利用される方々にとって最も意味のある形で財務情報を表示、検討するために、定義を見直しました。AIG の税引き後営業利益 (損失) の定義は、非継続事業の会計処理を行う要件を満たしていない事業売却による利益 (損失)、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、事業売却関連の活動から生じたのれん代減損費用、サンアメリカの正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する繰延保険獲得費用 (DAC) による相殺、そして繰延税金評価引当金の費用および減算を除くよう修正されました。

2008 年から AIG に影響を及ぼしてきたきわめて異常な出来事による歪んだ影響がなければ、AIG は、このような税引き後営業利益 (損失) の修正により、継続事業の業績とその事業の基本的な収益性を浮き彫りにすることで、事業の営業成績をより正しく評価し、より良く把握できると考えています。さらに、DAC による相殺の調整は、生命保険業界の非 GAAP 型の財務数値では一般的な調整であり、AIG がサンアメリカの営業成績をどう評価しているかを示す指標として優れています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2011年	2010年	増減(%)	2011年	2010年	増減(%)
チャーティスの保険事業：						
正味収入保険料	\$ 9,167	\$ 7,792	17.6 %	\$ 18,333	\$ 15,436	18.8 %
正味既経過保険料	9,033	7,733	16.8	17,684	15,374	15.0
請求および請求調整費用	6,680	5,575	19.8	14,436	11,034	30.8
引受経費	2,706	2,316	16.8	5,243	4,690	11.8
事業利益 (損失)	(353)	(158)	(123.4)	(1,995)	(350)	(470.0)
正味投資利益	1,142	1,113	2.6	2,321	2,184	6.3
営業利益	789	955	(17.4)	326	1,834	(82.2)
正味実現キャピタル・ゲイン (a)	39	58	(32.8)	86	195	(55.9)
バーゲン・パーチェス・ゲイン (b)	-	-	-	-	332	-
税引き前利益 (損失)	828	1,013	(18.3)	412	2,361	(82.5)
損害率	74.0	72.1		81.6	71.8	
経费率	30.0	29.9		29.6	30.5	
コンバインド・レシオ	104.0	102.0		111.2	102.3	
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：						
収入保険料の売上	662	658	0.6	1,283	1,325	(3.2)
保険証券発行手数料	682	657	3.8	1,366	1,305	4.7
GAAPによる収入に含まれない預かり資産、その他の収入	4,800	3,653	31.4	9,721	7,075	37.4
収入保険料、預かり資産、その他の収入	6,144	4,968	23.7	12,370	9,705	27.5
正味投資利益	2,461	2,628	(6.4)	5,215	5,335	(2.2)
営業利益	743	858	(13.4)	1,886	1,977	(4.6)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA の償却 (経費)	(59)	196	-	(42)	200	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	91	(966)	-	(129)	(1,762)	92.7
税引き前利益	775	88	780.7	1,715	415	313.3
金融サービス事業：						
営業利益 (損失)	(146)	25	-	173	(146)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	3	(1)	-	9	(32)	-
税引き前利益 (損失)	(143)	24	-	182	(178)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前	344	(131)	-	(1,423)	(93)	(1,430.1)
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	(27)	395	-	(465)	560	-
会社間連結・消去調整 (a)	29	112	(74.1)	5	77	(93.5)
継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益	1,806	1,501	20.3	426	3,142	(86.4)
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	(288)	1,005	-	(488)	558	-
継続事業の純利益 (損失)	2,094	496	-	914	2,584	(64.6)
非継続事業のタックス・エクスペンス調整後利益 (損失)	(37)	(2,611)	98.6	1,616	(2,268)	-
純利益 (損失)	2,057	(2,115)	-	2,530	316	700.6
控除：						
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：						
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	141	508	(72.2)	393	1,027	(61.7)
その他	64	20	220.0	9	139	(93.5)
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	205	528	(61.2)	402	1,166	(65.5)
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	12	13	(7.7)	19	23	(17.4)
非支配的持分に帰属する純利益	217	541	(59.9)	421	1,189	(64.6)
AIG に帰属する純利益 (損失)	1,840	(2,656)	-	2,109	(873)	-
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ 1,840	\$ (2,656)	-	\$ 1,297	\$ (176)	-

財務ハイライト (続き)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2011年	2010年	増減(%)	2011年	2010年	増減(%)
AIGに帰属する純利益 (損失)	\$ 1,840	\$ (2,656)	- %	\$ 2,109	\$ (873)	- %
AIGに帰属する非継続事業の利益 (損失)、税引き後	(49)	(2,624)	98.1	1,597	(2,291)	-
事業売却の純利益 (損失)、税引き後	(1)	93	-	(48)	17	-
事業売却の純利益 税引き後	10	467	(97.9)	16	951	(98.3)
繰延税金資産評価引当金 (費用) / 減算	570	(576)	-	7	245	(97.1)
NY 連銀前払委託手数料資産償却 税引き後	-	(353)	-	(2,358)	(768)	(207.0)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)、税引き後	44	(487)	-	(343)	(716)	52.1
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連するサンアメリカのDACによる相殺	(38)	127	-	(27)	130	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益 (損失)、税引き後	28	(96)	-	(41)	(203)	79.8
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	-	-	-	332	-
AIGに帰属する税引き後営業利益	<u>\$ 1,276</u>	<u>\$ 793</u>	60.9	<u>\$ 3,306</u>	<u>\$ 1,430</u>	131.2
普通株式1株当たり利益 (損失) - 希薄化後:						
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	<u>\$ 1.00</u>	<u>\$ (19.57)</u>	-	<u>\$ 0.76</u>	<u>\$ (1.30)</u>	-
AIG 普通株主に帰属する税引き後営業利益	<u>\$ 0.69</u>	<u>\$ 1.18</u>	(41.5) %	<u>\$ 1.95</u>	<u>\$ 2.13</u>	(8.5)
AIG株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (c)				\$ 48.83	\$ 558.56	(91.3)
AIG株主資本の見積普通株式1株当たり帳簿価額 (d)				\$ 49.18	\$ 45.25	8.7%
株主資本利益率	8.3%	-		4.8%	-	
株主資本利益率—税引き後営業利益 (e)	6.3%	4.7%		8.3%	4.3%	

財務ハイライト特記事項

* 規定Gに従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- 富士火災の追加取得に関連するバーゲン・パーチェス・ゲインを示します。
- AIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 2010年については資本再構成化を実施して算出した見積普通株式1株当たり帳簿価額を示します。
- その他包括利益累積額を除く、調整後株主資本を用いて算出しています。